復興発掘調査展 in 山田町

復興のための発掘調査13遺跡の成果をすべて公開！

人面付土器

山田町沢田出土遺物

平成30年

9/28(金) ▶ 9/30(日)

28日のみ 午前10時から

じかん　午前9時～午後5時

ところ　山田町中央公民館 小ホール

遺跡報告会：9月30日(日)午後1時30分（石峠Ⅱ遺跡・沢田Ⅲ遺跡・間木戸Ⅰ遺跡）

主催／(公財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター

共催／岩手県立埋蔵文化財センター　山田町　山田町教育委員会

後援／岩手日報社　NHK盛岡放送局　IBC岩手放送　テレビ岩手　めんこいテレビ
岩手朝日テレビ　エフエム岩手

ヒスイ大珠

香炉型土器

ごあいさつ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、7年半が経過しました。この間、甚大な被害を受けた沿岸地域の復興のため、多くの公共事業が計画されました。これらの復興に向けた公共事業に先立ち、膨大な数の遺跡発掘調査が必要となり、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターでは岩手県教育委員会の調整を受け、これまでに沿岸全市町村において合計約70万㎡の復興関連発掘調査を実施してまいりました。

ここ山田町でも、地域の皆様の御協力のもと防災集団移転促進事業や町営災害公営住宅、三陸沿岸道路建設に関連した13か所に及ぶ遺跡を調査し、先人の歴史を窺わせる多くの成果がありました。今回の復興発掘調査展を通して、遺跡の発掘によって明らかになった山田町の歴史について、思いを巡らせる機会としていただければ幸いです。

最後に、一連の発掘調査や本事業の開催にあたり御協力いただきました山田町、山田町教育委員会をはじめ山田町の皆様、関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成30年9月

主　催　者

山田町内の復興発掘調査

No.	調査年度	遺跡名	面積(㎡)	事業名	主な時代	種類
1	25・26・27	石峠Ⅱ	9,698	三陸沿岸道路建設	縄文	集落・狩場
					平安	集落
					鎌倉・室町	鉄生産・墓域
2	25	豊間根新田Ⅰ	15,400		縄文	狩り場
3	25	間木戸Ⅴ	1,200		縄文	集落
					奈良	鉄生産
4	25	間木戸Ⅱ	1,510		縄文	集落
					古墳末～奈良	集落
5	25・26・27	間木戸Ⅰ	9,800		縄文	集落
					奈良末～平安	集落
6	25・26	沢田Ⅲ	9,600		縄文	集落
					古墳後～奈良	集落
					平安	鉄生産
7	27	房の沢Ⅳ	2,370		縄文	狩場
					奈良末～平安	集落
8	26	浜川目沢田Ⅰ	6,240	防災集団移転促進	縄文	集落
9	28	浜川目沢田Ⅱ	13,500	主要地方道	縄文	集落
					平安	集落・鉄生産
10	25・26	焼山	5,400	防災集団移転促進	平安	鉄生産
					平安末～鎌倉	鉄生産
11	27	クク井	4,800	防災集団移転促進	縄文	集落
					平安	集落・鉄生産
12	25	田の浜館	52,700		縄文	集落
					奈良末～平安	鉄生産
					江戸時代以降	鉄生産
13	27	川半貝塚	5,000	町営災害公営住宅建設	縄文	集落
			137,218			

山田町の復興発掘調査

埋蔵文化財センターでは、三陸沿岸道路建設、防災集団移転促進事業などの復興関連調査13件を行いました。

三陸沿岸道路は山田インターチェンジから内陸部を宮古方面へ延びていきますが、山田北小学校から北側の谷筋に沿って縄文時代中期の大集落が連なって見つかりました。南から沢田Ⅲ遺跡、間木戸Ⅰ遺跡、間木戸Ⅱ遺跡と隣接しており、3遺跡併せて300棟以上の竪穴住居が見つかっています。

縄文時代の人々は主に木の実の採集や狩猟によって食料を確保していることから、採りすぎると資源がなくなるおそれがあり、大集落が隣接していることはまれです。それを可能にしているのは穏やかな山田湾の魚や貝類などの恵みによるものと思われ、沢田Ⅲ遺跡からそれを物語る貝類が見つかりました。

同じく山田湾では北岸の浜川目沢田Ⅰ遺跡も調査しました。この遺跡は海までおよそ150mと近く、標高も低いことから縄文時代中期の集落のほかに低い場所に立地することの多い晩期や後期の捨て場もあり、多くの土器が見つかりました。調査区南端の後期の捨て場からは当時の津波堆積層も見つかっています。

山田湾沿岸の縄文時代中期の遺跡からはヒスイの玉類が見つかることがあり、遠くの貴重な産物を入手できるほど繁栄していた地域であったようです。

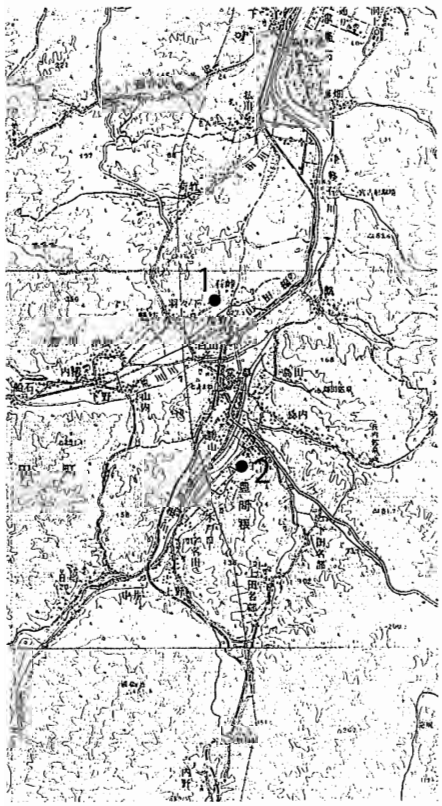
豊間根地区では豊間根新田Ⅰ遺跡、石峠Ⅱ遺跡からいずれも300基を超える落とし穴が見つかっており、縄文時代の広大な狩場となっていたとみられます。

山田町では以前から平安時代ごろから製鉄が盛んだったことがわかっていましたが、今回の調査でも13遺跡中10遺跡から鉄滓（てっさい）が見つかっています。鉄づくりの生産遺構が調査区内になくても、鉄滓の存在は近くで生産していたことを意味します。

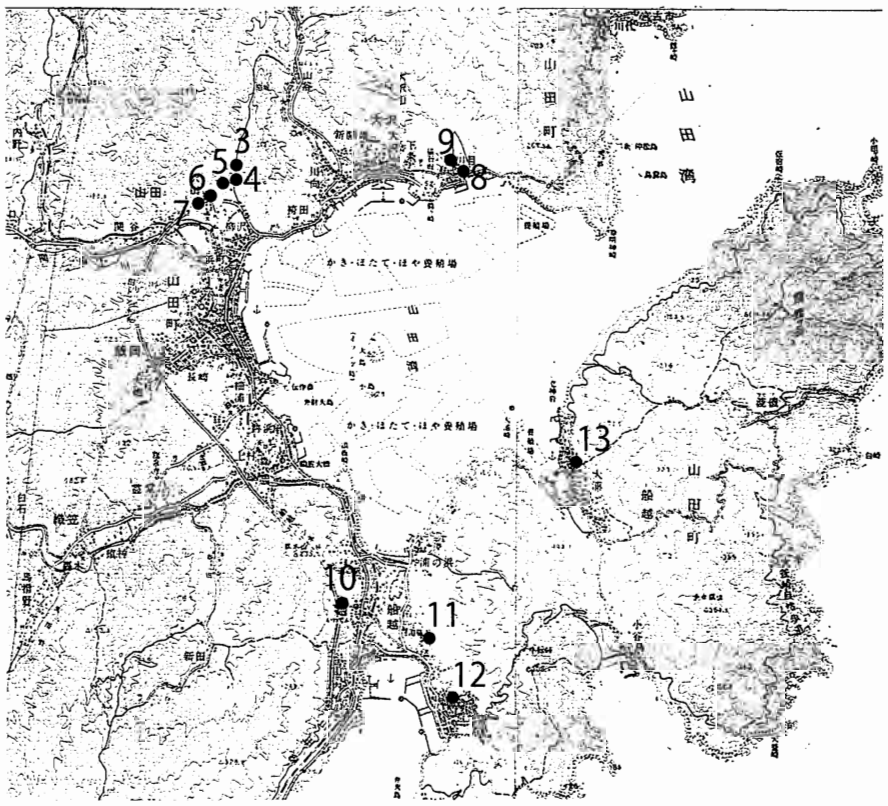
焼山遺跡では平安時代と鎌倉時代初めころの鉄の生産遺跡です。鉄製品を作る一連の工程の遺構が発見されただけでなく、製鉄炉の時期による構造の変化が一つの遺跡で確認された貴重な例です。

また、間木戸Ⅴ遺跡では、奈良時代の製鉄炉が見つかり、沿岸地方の鉄づくりの最も古い例となりました。

山田町で鉄生産が古くから盛んであったのは、地盤が鉄分を多く含む花崗岩で、砂鉄が豊富に採れること、背後の山々から炭の調達が容易であること、鉄づくりに適した地形であることによるものです。



番号は左の表に対応　1:25,000 津軽石



1:25,000 陸中山田・霞露ケ岳を合成

いしとうげ
石峠Ⅱ遺跡

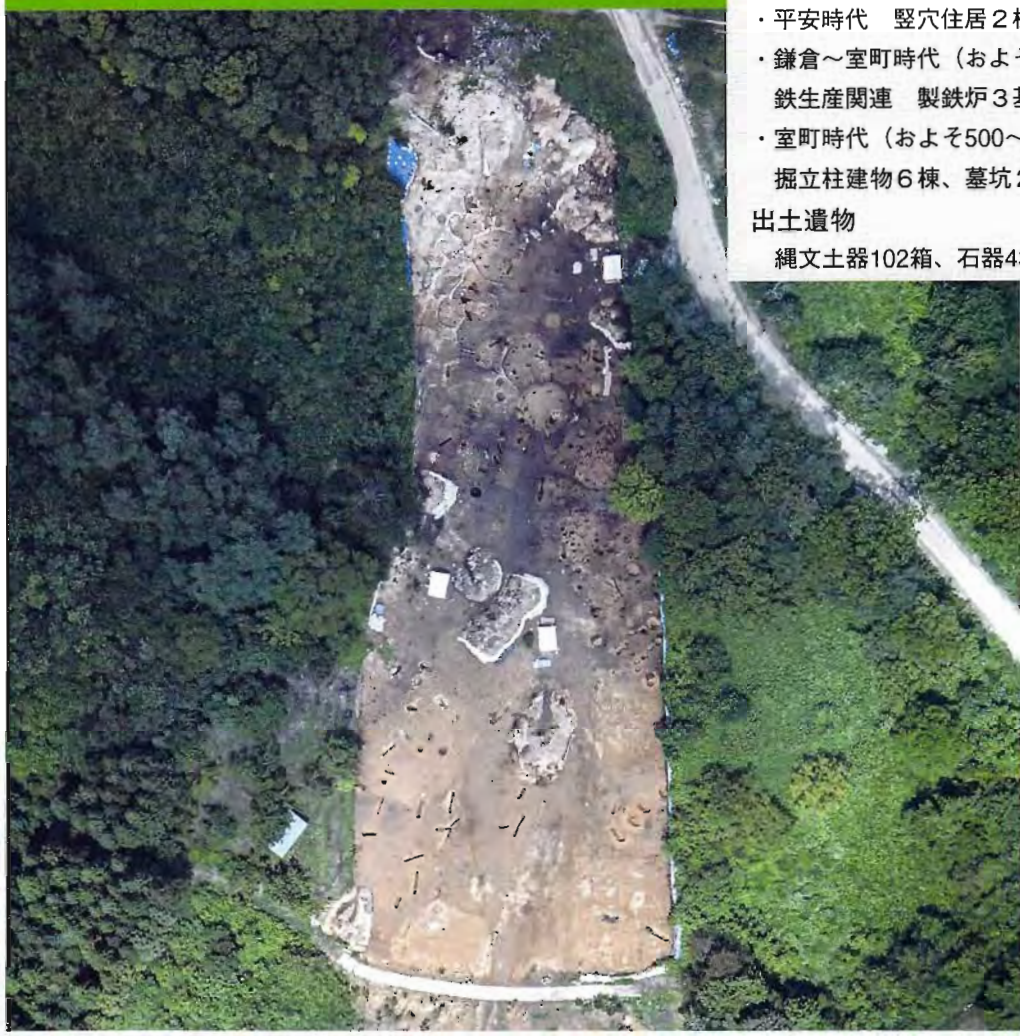
山田町石峠第２地割６－30 ほか

主な時代と内容

- 縄文時代早期（およそ8,000年前）　竪穴住居３棟
- 縄文時代前期（およそ6,000年前）　竪穴住居34棟など
- 縄文時代中期（およそ4,000年前）　竪穴住居110棟、貯蔵穴70基
- 縄文時代　落とし穴302基など
- 平安時代　竪穴住居２棟
- 鎌倉～室町時代（およそ800～600年前）鉄生産関連　製鉄炉３基など
- 室町時代（およそ500～600年前）掘立柱建物６棟、墓坑２基

出土遺物

縄文土器102箱、石器434箱、鉄滓89箱



調査区上場空から撮影した写真　上が北東
竪穴住居は緩斜面の同じところに繰り返し建てられています。
中央に見える大形の竪穴住居が特殊な炉を持つ住居です。

石峠Ⅱ遺跡は縄文時代には集落や狩り場として、平安時代から室町時代には、鉄生産に係わる場、集落、墓地として、江戸時代には集落として断続的に利用されていた遺跡です。中心となるのは縄文時代で、早期、前期、中期と３時期にわたって遺構・遺物が見つかりました。縄文時代早期は竪穴住居３棟と小規模な集落ですが、山田町で最古級の集落遺跡となります。前期になると、30 棟以上の住居数になり、町内でも有数の棟数になります。遺構数・遺物量とも最多となるのが縄文時代中期で、緩斜面の同じところに繰り返し住居が建てられています。石組の外側に棒状礫や扁平礫を用いて、炉の外辺を装飾している特殊な複式炉を持つ竪穴住居も見つかっています。

詳細な時期を特定できませんが、円形・楕円形・溝状等の多様な平面形の落とし穴が見つかっています。同じ地域の豊間根新田Ⅰ遺跡でも多数の落とし穴が見つかっており、豊間根地区が狩猟の一大拠点となっていたことが想定されます。

縄文時代以外のものでは、鎌倉～室町時代の製鉄炉や羽口（はぐち）・鉄滓（てっさい）等の鉄生産に係わる遺構・遺物も見つかりました。岩手県沿岸中央部の豊富な砂鉄原料を背景とした鉄生産を解明する重要な遺跡の一つとなります。

このように多くの遺構・遺物が見つかった石峠Ⅱ遺跡ですが、遺跡の中心となる縄文時代中期の集落の様子には、比較的平坦な緩斜面を居住域に、緩斜面裾から急斜面を貯蔵域として利用する特徴が見られます。今回の発掘調査の対象とならなかった場所にも遺跡の範囲は広がっており、岩手県沿岸部における重要な集落遺跡の一つと考えられます。

およそ 8,000 年前の縄文時代早期の竪穴住居
山田町では最古級の住まいです。

およそ 6,000 年前の縄文時代前期の竪穴住居
この時期の住居は四角い形のものが多く見られます。

およそ 4,000 年前の縄文時代中期の竪穴住居
炉のまわりに装飾のある県内でも類を見ない特殊な複式炉を持つ住居です。

炉の部分を拡大したものです。外側を飾るように置いた石の用途は分かっていません。

室町時代の製鉄炉
平面形が円形であることから、円筒形の竪形炉と考えられます。写真中央手前には炉から流れ出た鉄滓が残っています。

室町時代（およそ 500 ～ 600 年前）のお墓
葬られていたのは成人男性で頭骨の主に右側半分が残っています。副葬品として中国で作られた銅銭が見つかっています。

とよまねしんでん
豊間根新田Ⅰ遺跡

山田町豊間根第７地割１１３－５ほか

主な時代と内容
・縄文時代前期～中期（およそ6,000～4,000年前）
　落とし穴361基、焼土遺構2基など
出土遺物
　石鏃、石鍬？各１点

豊間根小学校西の豊間根新田Ⅰ遺跡は、南東の山裾から豊間根川に向かって緩やかに傾斜する斜面にあります。この斜面からこれまでの県内の調査では最も多い361基もの落とし穴が見つかりました。

落とし穴は、溝状のもの250基、楕円形のもの61基、円形のもの50基があり、底に逆茂木となる杭が打ち込まれていたあとが残っているものもあります。動物はこのような穴に入ると足をとられ、抜けることができなくなります。

落とし穴の形の違いは時期の違いと考えられています。円形の落とし穴は山に近い標高の比較的高い場所に多く分布し、楕円形のものは低い場所に分布しています。溝状のものは全体に広がっていますが、最も低い場所に特に集中しており、新旧の落とし穴が重なっている例が見られます。縄文人は狙った動物がどこを通るか知っていて、その場所に落とし穴を掘ったのでしょう。

落とし穴から見つかったわずかな炭の科学的な年代測定を行った結果、円形では縄文時代前期のおよそ5,800年前、溝状では縄文時代中期のおよそ4,650年前のものがあることがわかりました。

この場所は長い間縄文人の狩り場だったのです。

左　上空から見た遺跡
361基の落とし穴が見つかりました。上が北西で斜面下。下は南東で、山に向かって標高が高くなります。

下左　溝状の落とし穴２基と楕円形の落とし穴が一部重なっています。楕円形の落とし穴の底には杭の跡が並んでいるようすがわかります。

下右　円形の落とし穴
中央に杭の跡があります。

間木戸（まぎど）Ⅴ遺跡

山田町山田第３地割 56-2 ほか

主な時代と内容

・縄文時代中期（およそ4,000～5,000年前）
竪穴住居２棟など。

・奈良時代の鉄生産関連（およそ1,250年前）
竪穴住居１棟、工房２棟、製鉄炉５基、炭置き場２基、廃滓場１箇所

出土遺物

縄文土器・土師器、石器、羽口、鉄滓約22箱

１号工房
一辺 4m の掘り込みに３基の製鉄炉が並んでいます。この工房の下からも古い工房が見つかり、２基の製鉄炉がありました。

間木戸Ⅴ遺跡は縄文時代中期と奈良時代の複合遺跡です。

縄文時代の竪穴住居はわずか２棟で、隣接する間木戸Ⅱ遺跡でも同時期の遺構が見つかっていることから同じ集落の一部と考えられます。

奈良時代の遺構は竪穴住居・製鉄炉の伴う工房・炭置き場が見つかっており、鉄生産に係わる遺構がほとんどです。間木戸Ⅴ遺跡では住居内に鉄生産に関連する付属施設が伴っておらず、遺構の機能分離が明確化している点に大きな特徴が見られます。

これらの鉄生産に係わる遺構は町内でも古い時期の可能性を含んでおり、沿岸部における鉄生産初期段階の様相を解明する上で重要な遺跡と言えます。

中　２号製鉄炉
底面が青黒く還元しています。
３基の炉のうち１号製鉄炉が最も新しく、次いで２号、３号の順に古くなります。

下　２号炭置き場
炭が底面に堆積しています。製鉄に欠くことのできない炭を置いていた場所です。

間木戸（まぎど）Ⅱ遺跡

山田町山田第３地割 56-1 ほか

主な時代と内容

・縄文時代中期（およそ4,000年前）
　竪穴住居25棟、土坑など
・古墳時代末～奈良時代（およそ1,300年前）
　竪穴住居５棟など

出土遺物

縄文土器54箱・石器・石製品・土製品
土師器１箱・須恵器・鉄鏃・鉄鐸・土製紡錘車

南上空から撮影
矢印の下が遺跡で、谷間に立地しています。

間木戸Ⅱ遺跡は、山田町役場から北へ約 1.5km、間木戸川によって作られた谷間に広がる扇状地に立地します。調査の結果、縄文時代中期中頃（およそ 4,500 年前）と古墳時代末～奈良時代（およそ 1,300 年前）の集落として栄えた場と判明しました。

この遺跡の地盤は大きな石が沢山見つかる地形にあり、竪穴住居などを掘るのにはかなりの重労働で、縄文人や古代人のたくましさが感じられます。

縄文時代の集落は間木戸Ⅴ遺跡にも続いており、間木戸川沿いに広がる大集落の一部と考えられます。

周辺の沢田Ⅲ遺跡、沢田Ⅰ遺跡、間木戸Ⅴ遺跡でも古墳時代末～奈良時代の集落が見つかっており、それらの集落や房の沢古墳群との関連が注目されます。

中　竪穴住居を掘り下げている風景
人頭大の石が各所に散在するようすが分かります

下　調査で見つかった大昔の沢
人が並んでいるラインから左に昔大きな沢があったことがわかりました。沢跡からも土器がたくさん見つかっています。奥に見える斜面は間木戸Ⅴ遺跡です。

間木戸（まぎど）Ⅰ遺跡

山田町山田第３地割 57 ほか

主な時代と内容

・縄文時代前～中期
（およそ5,500～4,000年前）
竪穴住居約250棟、貯蔵穴約100基、炉・焼土40基、土器埋設遺構７基など

・奈良時代末～平安時代
（およそ1,100～1,000年前）
竪穴住居、工房23棟、鉄生産関連炉１基など

出土遺物

・縄文時代前～中期
土器750箱、石器、石製品約150点、土製品約130点、ミニチュア土器約50点、貝・獣骨類５箱分など

・奈良～平安時代
土師器・須恵器６箱、金属製品約30点、灰釉陶器碗１点など

・平安～江戸時代
常滑窯産陶器甕１点、羽口・鉄滓・炉壁10箱分など

上　建設中の三陸沿岸道路と間木戸Ⅰ遺跡
下　発掘調査のようす（平成 26 年）

間木戸Ⅰ遺跡は、山田町役場から約 1.5km北側に位置します。北西側から延びる丘陵の縁辺部に立地し、南東側は北から南西に流れる沢によって区切られています。調査の結果、縄文時代前期末～中期（約 5,500 ～ 4,000 年前）と奈良～平安時代（約 1,100 ～ 1,000 年前）の集落であることがわかりました。

縄文時代の竪穴住居は調査区中央の南向きの緩斜面部で重なるように作られていました。住居は直径が３～６ｍ程

上　重なり合う縄文時代の竪穴住居と貯蔵穴
　　壁際の溝が幾重にも掘られています。
下　竪穴住居内に埋められた縄文土器
　　さかさまに埋められています。

度の円形で、中央付近には炉が設置されていました。また、調査区北東側の斜面部では直径１～３m、深さ1.5ｍ程の貯蔵穴が見つかりました。

遺物は大量の縄文土器のほか、石器や石製品、土製品などが非常に豊富に出土しました。

奈良～平安時代の竪穴住居・工房からは、馬具や銙帯金具（かたいかなぐ）・灰釉陶器（かいゆうとうき）といった貴重品が出土しています。集落の規模は縄文時代より小さいものの、地域の有力者が住んでいた可能性があります。

間木戸Ⅰ遺跡の縄文時代の集落は山田町でも随一の規模であることがわかりました。集落が営まれた理由としては、日当たりのよい南向き斜面で背後に山が控える一方、山田湾にも近く生活に非常に適した場所であったことが挙げられます。なお、縄文時代の竪穴住居は規模が極端に大きいものや特殊な遺物が出土したものはほとんどありません。

この集落に住んでいた人々は、穏やかな山田湾を望みながら比較的平等な生活をしていたのではないかと想像されます。

平安時代の竪穴住居から見つかった土器
坏(つき)や壺がまとまって出土しました。

縄文時代中期の土器　およそ 4,500 年前

ミニチュア土器　片手にのる大きさです

沢田（さわだ）Ⅲ遺跡

山田町山田第３地割ほか

主な時代と内容

- 縄文時代前期（およそ5,000年前）　竪穴住居23棟
- 縄文時代中期（およそ4,000年前）　竪穴住居75棟
  貯蔵穴90基
- 古墳時代後期～奈良時代（およそ1,300年前）竪穴住居26棟
- 平安時代中期（およそ1,000年前）　鉄生産関連炉跡20基

出土遺物

縄文土器・土師器310箱・石器・石製品30箱
動物遺存体90箱・植物遺存体11箱

沢田Ⅲ遺跡は、現在の山田湾の汀線より直線距離で約0.8km内陸に入った場所に位置しています。標高は約12～30ｍです。

調査の結果、縄文時代前期と中期の集落跡、古墳時代後期～奈良時代の集落跡と平安時代の鉄生産関連遺構など、たくさんの遺構・遺物が確認されました。なかでも、縄文時代や古墳時代後期の人々の食についての物証が数多く確認できたことは貴重な成果です。例えば、アサリ主体の貝殻、ニホンジカ・イノシシ、マイワシなどの獣魚骨の動物遺存体、クリ・トチなどの木の実の植物遺存体など、多量の食物残滓が、竪穴住

南から見た沢田Ⅲ遺跡（矢印）周辺（手前に見えるのが山田湾）

上から見た調査区（白く見える部分が尾根・黒っぽいところは低地）

上から見た調査区（低地）

居や貯蔵穴から出土しました。

沢田Ⅲ遺跡の集落跡は、山田湾に向かって南向きに開けた場所で、北西側の山を背に南東側に海を望むことができた豊かな自然環境のなかに形成されていました。当地で集落を営み、生活していた人々は、身近なところから、自然の恵みである「山の幸」「海の幸」を採集し、食べていたことが、今回の調査でわかりました。

南斜面につくられた貯蔵穴群

木の実が出土した貯蔵穴

木の実の出土状況

竪穴住居に捨てられた貝殻

貝殻の出土状況

房（ぼう）の沢Ⅳ遺跡

山田町山田第１４地割ほか

主な時代と内容

- 縄文時代　落とし穴１基
- 奈良末～平安時代（およそ1,200年前）
  竪穴住居１棟
- 奈良時代以降　土坑２基

出土遺物

縄文土器、土師器、石器、鉄製品、羽口片、鉄滓

房の沢Ⅳ遺跡は、平成８・９年に三陸沿岸道路の工事に先立って調査が行われ、７・８世紀の古墳と馬墓が発見されました。副葬品として方頭大刀・蕨手刀をはじめとする刀剣類や馬具が数多く出土し、県内では他に類を見ない終末期の古墳群であることが判明しています。

復興調査では、そこに隣接する北側区域を調査しました。結果、尾根頂部から縄文時代の落とし穴、奈良時代末～平安時代の竪穴住居などが見つかり、狩り場や居住域として断続的に利用されていたことがわかりました。南斜面で発見された墳墓群は見つからず、北側へは広がっていなかったようです。

下　平成８・９年度調査の南斜面（矢印）で発見された古墳群は、北側へは広がっていないことがわかりました。

はまかわめさわだ
浜川目沢田Ⅰ遺跡

山田町大沢字浜川目第11地割

主な時代と内容
- 縄文時代中期前葉～末（およそ5,000～4,000年前）
  竪穴住居22棟など
- 縄文時代後期中葉～晩期（およそ3,500～2,500年前）
  竪穴住居２棟など
- 縄文時代前期～晩期　遺物包含層
- 平安時代　土坑１基

出土遺物
- 縄文前期～晩期　土器436箱、石器133箱ほか
- 平安時代　土師器・須恵器、羽口ほか
- 近現代　銃弾（米軍機銃掃射）

山田湾の北岸、大沢地区の海岸近くにある縄文時代の集落跡です。今回の発掘調査の結果、これまで三陸沿岸地域で発見されている縄文時代の遺跡とは異なり、標高２～７ｍの低地に営まれた集落跡であることがわかりました。

調査区は北側の一段高い平坦面（標高７ｍ程）と、南側の低い平坦面（標高２ｍ程）に分かれます。調査の結果、北側では複式炉を備えた竪穴住居などで構成される縄文中期の集落跡、南側では後期から晩期にかけての集落跡が展開していました。また、全域にわたって、前期から晩期にかけての大規模な遺物包含層が分布しています。

遺物包含層は多量の土器や石器によって足の踏み場もないような「捨て場」の状態でした。コンテナ500箱近くの土器、２万点を超す石器があり土偶や石棒など特殊な出土品も含まれます。

なお、この包含層の一部からは、約3,800年前に発生した古津波の堆積物と推定される砂層が発見され、災害の記録が発掘調査で確認された貴重な事例となりました。

この遺跡で特筆されるのは、遠方との交流を示す数々の出土品です。新潟県糸魚川産のヒスイで作られた大珠、勾玉をはじめ、秋田県沿岸を産地とするアスファルト塊、長野県や北海道産の可能性がある黒曜石製石器などの出土は、遠方との交流が盛んに行われていたことを示しています。

特に、ヒスイ製大珠は縄文中期、勾玉は同晩期と推定され、長年にわたりこの地域での拠点的な集落であったことがうかがい知れます。

調査区を北から望む　遠景に山田湾

縄文時代中期の竪穴住居
複式炉燃焼部が赤く焼けています

住居の床下から発見された伏甕
大型の土器を倒立状態で埋めています。その目的はいまだ謎です。

遺物包含層中に確認された津波堆積物の砂層。灰色に見える部分が該当します。

縄文晩期の遺物が集中する地点
完全な形に近いまま多くの土器
が見つかっています。

接合作業の結果、数多くの土器が元の形まで復元されました。この写真は縄文時代中期後葉、大木 8b ～ 9 式土器を集めたもので、大きさや形は多様ですが、文様装飾の共通性を見て取ることができます。

はまかわめさわだ
浜川目沢田Ⅱ遺跡

山田町大沢第 11 地割 113 － 3 ほか

主な時代と内容
- 縄文時代中期（およそ4,000～5,000年前）
  竪穴住居18棟、貯蔵穴140基など
- 平安時代（およそ900～1,000年前）
  竪穴住居９棟、鉄生産関連炉１基、貯蔵穴21基など

出土遺物
縄文土器、石器、鉄滓・羽口

浜川目沢田Ⅱ遺跡は山田湾を望む小高い丘の上にある縄文時代と平安時代の複合遺跡です。

縄文時代中期を通して断続的に集落が営まれたことが分かりました。およそ5,000年前の中期のはじめの頃は貯蔵穴のみが確認されますが、段々と竪穴住居が確認されるようになり、中期の終わり頃になると、集落として最盛期を迎えるようになります。

一方、平安時代には鉄生産の場として利用されていました。一般的なカマドを持つ竪穴住居は見られず、竪穴内に炉を持ち、金床石（かなとこいし）や羽口（は

右　東側上空から撮影した遺跡　中央左寄りの禿げ山になっている部分が調査範囲です。手前の調査区では縄文時代の遺構と平安時代の遺構が、奥の調査区では平安時代の遺構が見つかりました。

東側の調査区を真上上空（上が北東）から撮影したものです。丸く見えるものは全て貯蔵穴です。

ぐち）が見つかるなど工房的な要素が強く見られます。

町内で見つかっている鉄生産に関連する遺跡と比較すると鉄滓の量が圧倒的に少なく、鍛冶（かじ）に関連する工程を担っていた場であると考えられます。

縄文時代中期の貯蔵穴
底の直径が穴の口の直径より広がっています。大きいものでは直径2m以上、深さ2m以上のものがあります。

平安時代の貯蔵穴
縄文時代のものとは異なり、円筒形をしており、黒っぽい土で埋まっています。中からは羽口や鉄滓が見つかっています。

平安時代の竪穴住居
カマドはなく、写真中央奥に焼土（炉）があります。右下の穴からは羽口や鉄滓が見つかっています。通常の住居ではなく、鍛冶関連の工房と考えられます。

焼山遺跡

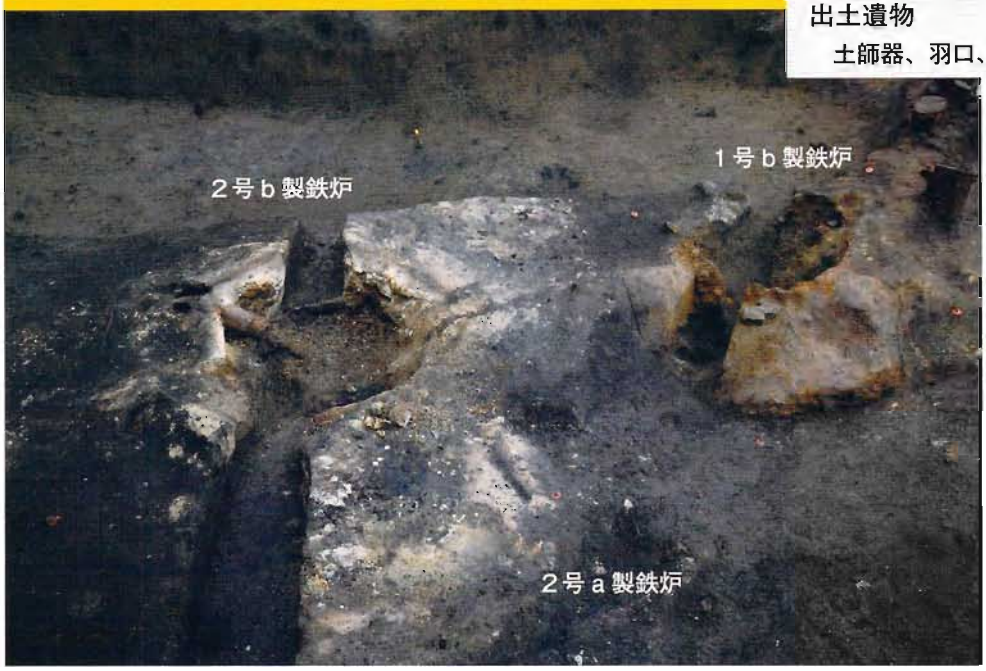
山田町船越第６地割

主な時代と内容

・平安時代（およそ1,200年前）
　製鉄炉９基、鍛冶工房２棟、炭窯５基など
・平安時代末～鎌倉時代初め（およそ800年前）
　製鉄炉10基、製鉄工房５棟、炭窯12基、
　粘土採掘坑など

出土遺物

土師器、羽口、鉄製品、鉄滓、炉壁、砂鉄



製鉄炉は同じ場所に隣り合ったり、重なったりして何度も作られます。

２号ｂ製鉄炉を角度を変えて写しています。羽口（送風管）が炉に取り付けられているようすが初めて確認できた貴重な例です。

焼山遺跡は、船越半島の付け根の、南東にゆるやかに傾斜する斜面にある鉄の生産遺跡です。

今回の調査では、製鉄炉のある製鉄工房や鍛冶炉を備えた鍛冶工房、炉を作るために粘土を採った穴や、鉄づくりに必要な炭を生産する炭窯などが見つかりました。

見つかった砂鉄は、遺跡から0.8km北側の長林の海岸で採取した砂鉄と組織が一致しており、周辺で豊富にみられる砂鉄を原料としていたことが確認されました。また、鉄滓の分析から、製鉄炉で生産した鉄の純度を上げる精錬（せいれん）鍛冶と鉄を鍛えて製品を作る鍛錬（たんれん）鍛冶の両方を行っていたことがわかりました。

さらに、炭の年代測定から、比較的小型（直径1m弱）で構造が簡素な製鉄炉は平安時代のもので、直径1.5mとやや大きく、地下に炭を敷き詰め粘土を貼る構造の製鉄炉は平安時代末から鎌倉時代初め頃のものとわかりました。山田町ではこれまでにも多くの製鉄炉が見つかっていますが、焼山遺跡の調査で、鉄づくりの技術の変化が明らかになりました。

炭窯断面
鉄づくりには炭が欠かせません。断面を見ると、底に炭の細片が堆積しています。

鍛冶工房
竪穴の中央に炉があります。床に空いた穴からは鍛造剥片（鉄を熱してたたくと飛び散る薄い鉄滓）が出てきました。

クク井（い）遺跡

山田町船越第６地割ほか

主な時代と内容

・縄文時代前～中期（およそ6,000～4,000年前）
　竪穴住居８棟、土坑17基
・平安時代（およそ1,100年前）
　竪穴住居３棟、鍛冶工房５棟、土坑15基、
　性格不明遺構（粘土採掘坑）１基

出土遺物

縄文土器、石器・石製品、古代土器、土製品、
鉄製品・鉄滓ほか

船越半島の西側、船越湾から約200ｍ内陸の丘陵上に位置するクク井遺跡は、縄文時代・平安時代・江戸時代以降の複合遺跡です。

縄文時代の集落は丘陵の斜面部に営まれました。前期後葉頃（大木５式期）、斜面の上方と下方に集落が作られはじめ、最大で長さ13ｍを超える大型住居を中心としたムラが展開します。

中期中葉～後葉頃（大木８ａ～８ｂ式期）になると竪穴住居の数は減り、集落の縮小がみられます。

平安時代になると、鍛冶工房や工房的な性格を備えた竪穴住居が複数作られはじめ、鍛冶を主体とした鉄生産の場として利用されたようです。１号工房では、椀型滓が炉内から元の位置を留めた状態で出土しています。周辺からは還元色を示す被熱硬化範囲が４か所、金床石、鍛造剥片（たんぞうはくへん）、粒状滓（りゅうじょうさい）などが見つかっており、これらは同施設内で「加熱」➡「鍛打（たんだ）」の一連の工程が繰り返し行われていたことを示すものと考えられます。

北西上空から見た調査区　上方に見えるのは船越湾です。

縄文時代前期の大型住居跡
長さ13m、深さ１ｍほどあります。

平安時代の鍛冶炉　炉のくぼみの中には椀型滓が２点、
そのままの状態で残されていました。

縄文時代前期の耳飾り
素材には滑石が多く使われています。

田の浜館跡（たはまだて）

山田町船越第 12 地割ほか

主な時代と内容

・縄文時代中期（およそ5,000～4,000年前）　竪穴住居１棟

・奈良時代末～平安時代中期（およそ1,200～1,000年前）
製鉄炉３基　炭窯６基など

・江戸時代以降　平場48個所　竪穴遺構１棟
鍛冶炉１基　炭窯１基　墓坑２基など

出土遺物

縄文土器・石器・土師器・羽口・炉壁・鉄滓・陶磁器・砥石・煙管・火打ち金・銭貨など

田の浜館跡は船越半島の南西側、牛転び沢に沿って伸びる丘陵尾根上に立地しています。調査区内では、奈良時代末～平安時代中期の製鉄炉や炭窯、鉄滓や砂鉄が見つかりました。近くの牛転び沢から砂鉄を採取し鉄の生産を行っていたようです。

一方で、田の浜館は中世の城館跡と伝承されていますが、今回の調査で城館に関連する遺構・遺物は確認できませんでした。その理由として後世の造成によって遺構が壊されてしまった、またはそもそも城館の範囲が調査区の外側に位置しているという可能性が考えられます。

南西上空から見た田の浜館跡
段々に造られた平場は江戸時代以降のものとわかりました。

川半貝塚（かわはんかいづか）

山田町船越第 22 地割ほか

主な時代と内容

・縄文時代前期～中期（およそ6,000～4,000年前）
竪穴住居７棟、土坑５基

・江戸時代　墓坑６基

出土遺物

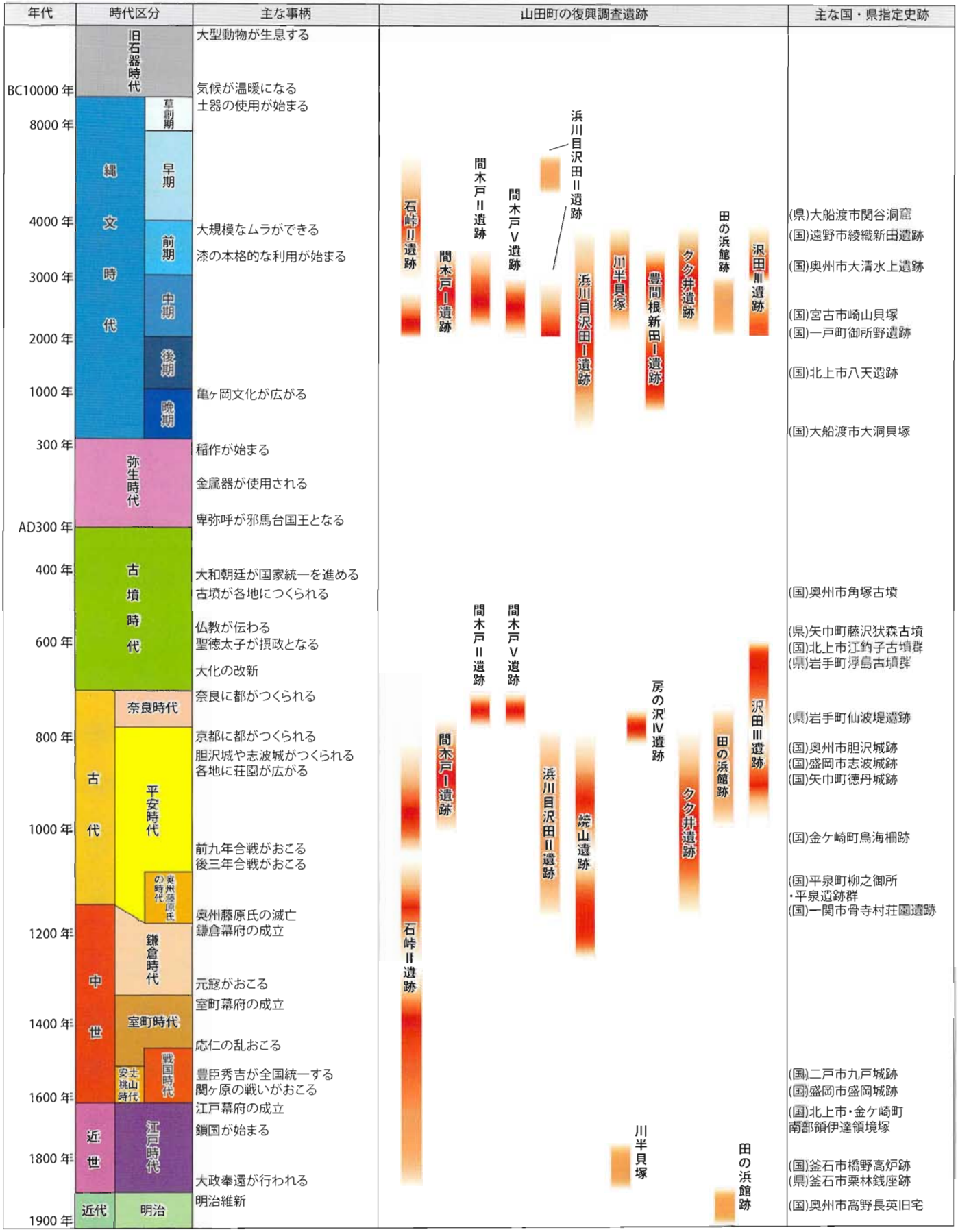
縄文土器、石器、土製品、陶磁器、銭貨など

川半貝塚は、船越半島の北西部に位置し、昭和36年に石垣の工事中に貝層が見つかったことにより発見された遺跡です。

平成27年に行われた復興発掘調査では、貝層は発見されませんでしたが、縄文時代前期・中期の遺物や集落を構成する竪穴住居、貯蔵穴などが確認されました。また、江戸時代の墓坑（ぼこう）も密集して見つかっており、寛永通宝（かんえいつうほう）が出土しています。

山田湾を望む川半貝塚

岩手県の遺跡略年表



編集・発行　(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡 11-185　☎019-638-9001
E-Mail: i-maibun@echna.ne.jp　URL: http://www.iwate-maibun.jp/
印　　刷　第一印刷有限会社　〒020-0122　岩手県盛岡市みたけ4丁目6-40　☎019-646-6001

©(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2018